

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	医療法人ららら 児童発達支援教室 ゆるゆる		
○保護者評価実施期間	R6年12月20日		R7年1月31日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	23	(回答者数) 22
○従業者評価実施期間	R6年12月9日		R6年12月31日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	10	(回答者数) 10
○事業者向け自己評価表作成日	R7年2月12日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※) だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	個別療育の利点を生かし、個々の特性を考慮し、それぞれに合わせたプログラムを行うことができる。	<ul style="list-style-type: none"> ★子供に1対1で接することでその特性を把握し、児に合わせた課題や時間配分ができる。 ★子どもの特性に合わせた見通しボードや課題を作成し、個々に合わせたタイミングで見通しを示すことができる。 ★医療的ケアが必要な場合は、その疾患の特性も加味しつつ支援計画をたてること出来る。 ★愛着形成ができていない場合は、担当者を固定し、1対1の愛着形成を図ることで安心して集団に入る基盤をつくるようにしている。 ★得意な事や苦手な事を理解して、自己コントロールできるように支援する。 ★個別療育の中で、他者視点を学べるように支援する ★個の状態が落ち着いて来た段階で、小集団の中で対応できるように支援する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・記録類の改正：目標や支援課題、課題の達成度が明確に記載でき、担当の負担にもならないような記録類の改正。 ・プログラムの作成にあたり、発達障害に対する研究文献や、体験者経験等によりより多くの症例に触れ学びを深める。学びを職員間で共有する。 ・スキルの標準化を図る。
2	毎回の療育後に保護者と対話する事が出来るため、保護者の疑問や、その時に不安に思っている事・困っている事をリアルタイムで課題に反映することができる。	<ul style="list-style-type: none"> ★本人や保護者の困りごとに対応できる限りタイムリーに対応したプログラムを検討・実施する。 ★類似した特性でも子供を取り巻く環境によって支援方法は異なるため、個々に対して担当スタッフ間の話し合いと保護者や関係機関との連携を図るようにしている。 ★療育で行っている事を、家庭でも活用できるように視覚教材の共有や、声かけや働きかけの方法の共有を行っている。 ★不安が大きい場合には、適した声かけの方法を模索し、保護者と共有する。 ★療育の支援が幼稚園や保育園の中でどのように生かされているのかを把握し、支援の方法の再検討としている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・今までのデータを評価し、今後の課題の参考とする。 ・幼稚園や保育園、併用施設との連携も保護者の承諾を得つつ定期的に行う。
3	母体が小児神経科であるために、専門外来や発達外来等による医師や理学療法士の専門的な意見やプログラムの提案を受ける事ができる。また、事業所内に常時 看護師・助産師・5年以上の保育士がいるため、それぞれの視点から児に必要な課題を考案することができる。	<ul style="list-style-type: none"> ★外来を受診するときに、療育の様子の伝達を行う。 ★外来受診後の注意点等の指導を得る。 ★動きの評価や効果的な運動等の所0元をもらい、遊びの中に組み入れて行く事ができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・それぞれの専門性に基づいた勉強会や、施設間相互の勉強会を設け参加する。

	事業所の弱み(※) だと思われること ※事業所の課題や改善が必要と思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	保護者同士の交流が図りにくい	母子分離による個別短時間療育であり、療育中は、保護者は出かけている事が多いため、交流が図りにくい。	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナによる隔離の傾向も希薄になってきたため、保護者同士の交流ができる部屋を設定する。 ・療育中は、保護者の自由な時間としているため、療育外の時間のイベント等で交流が図れるようにする。 ・保護者の学びの場を設ける。
2	同レベルの児同士の小集団が組みにくい時間帯がある。	年齢や障害のレベルによって時間帯を分けていないため。	<ul style="list-style-type: none"> ・小集団の療育を重視する状態の時は、時間帯変更や、振替え等を検討する。 ・幼稚園や保育所、他の集団療育との連携を密にする。
3	地域との交流が図りにくい	<ul style="list-style-type: none"> ・短時間の個別療育で、3つのグループに分かれているため。 ・幼稚園や保育園に通園している児が多いため、時間帯的に難しい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の行事へ事業所として参加する。 ・共同主催する地域行事に、通所児の参加を募る。